

株式会社ライセンスアカデミー(本社:東京都新宿区)は、高等学校における進路・進学説明会を中心に教育情報を提供・発信しています。進路情報研究センターは、「学校」「企業」「生徒・学生」の「今」を調査する同社のシンクタンク部門です。

このたび、全国の高等学校を対象に、①卒業年次生の現状(就職内定率など)、②高等学校の取り組み(就職支援など)、③インターンシップの現状などについて調査しました。

#### ■卒業後の進路変化「進学から就職へ」

全体的に就職希望者の増加の傾向が強まっている。ただし、エリアによっては、就職希望者の伸びが小さいところもある。

#### ■内定率は前年よりも良好(各校の内定率の平均は、男子90.8%、女子86.8%)

前年との比較による就職内定率の評価は、男女とも「大いに良い」「やや良い」が「やや悪い」「大いに悪い」を上回った。また、「大手・中堅企業」よりも「中小企業」の採用増を指摘する回答が多く見られた。

#### ■フリーター志向の生徒は4割の高校に

正社員採用削減などの雇用情勢の悪化により、やむを得ずフリーターになる生徒もいる。

#### ■インターンシップは2年生が中心

「2年生の夏期に3日間、近隣の商店や工場へ」というパターンで実施する高校が多い。ただし、4分の1の高校では3年間一度も実施していない。

#### ●調査対象

全国の高等学校のうち、881校を抽出してアンケートを送付。881校の内訳は、実際の高校種別の割合に即し、「専門学科、総合学科を有する高校」402校、「普通科のみ的高校」479校。なお、「普通科のみ的高校」で、就職者がほとんどいないは調査対象から外した。

#### ●調査方法、回収率

2014年1月10日にファックスにて、質問紙を発信。締切日1月23日までに、126校分を回収。内訳は、「専門学科、総合学科を有する高校」が64校、「普通科のみ的高校」が62校。回答率は14.3%。

#### ●集計上の注意

無回答は集計から外しているため、グラフ・表に無回答欄はない。

エリア別回答数

エリア	専門学科、総合学科を含む高校	普通科単独の高校	計	割合
北海道	5	7	12	9.5%
東北	10	11	21	16.7%
北関東・甲信越	7	10	17	13.5%
南関東	8	9	17	13.5%
東海・北陸	7	11	18	14.3%
近畿	6	6	12	9.5%
中国・四国	10	3	13	10.3%
九州・沖縄	11	5	16	12.7%
総計	64	62	126	100.0%

(株) ライセンスアカデミー  
進路情報研究センター

URL : <http://licenseacademy.jp/>

〒169-0073東京都新宿区百人町2-17-24

T E L 03-5925-1706

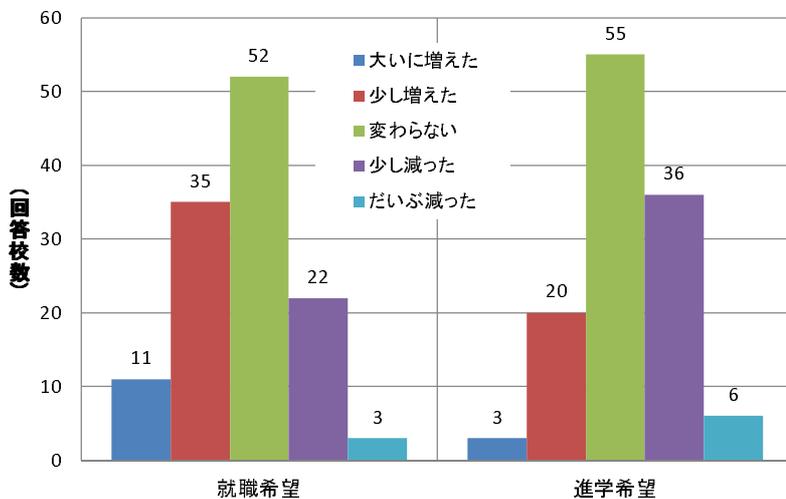
担当 : 加藤泰志

e-mail : [yasu.katou@licenseacademy.jp](mailto:yasu.katou@licenseacademy.jp)

※「北関東・甲信越」=茨城、栃木、群馬、山梨、長野、新潟  
「南関東」=埼玉、千葉、東京、神奈川

## ①高卒就職の実態

Q. 卒業後に就職を希望する生徒、および、進学を希望する生徒の割合についての変化は？

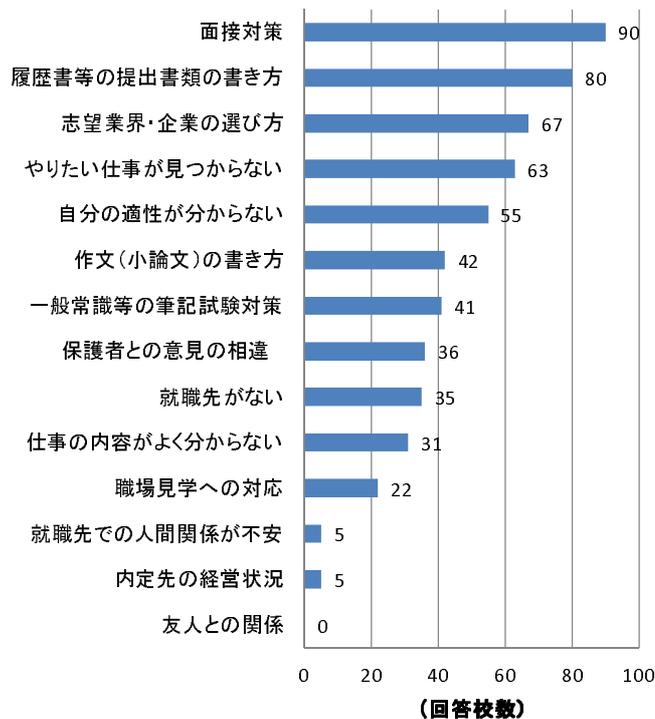


就職希望の生徒の割合は、各校平均すると35.9%。また、進学希望の生徒の割合は、同じく63.5%。

左図は、それぞれの進路を希望する生徒数について、前年との比較で尋ねたもの。全体的に就職希望の傾向が強まっている。ただし、エリア別に見ると、「九州・沖縄」のみが、就職希望者が「少し増えた」よりも「少し減った」が多く、さらに、進学希望者が「少し減った」よりも「少し増えた」が多い。就職希望が弱い傾向を示した。

**【コメント】**  
就職環境が好転してきた。これまで、就職先がないため「やむを得ず進学していた」層が、就職にシフトしたと考えられる。

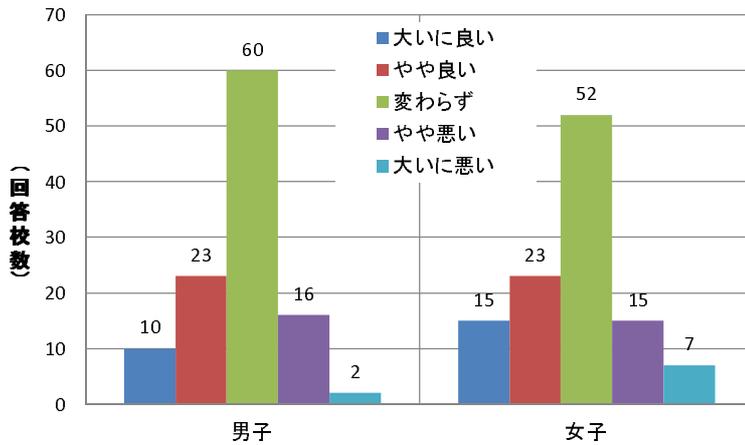
Q. 生徒から受ける相談内容として多い項目は？（上位5つまで選択）



「面接」と「履歴書および作文などの提出書類」の試験対策が中心になっている。「面接」に関する相談を挙げた割合に注目すると、「専門学科、総合学科を含む高校」では67.2%に対し、「普通科単独の高校」では75.8%に達している。なお、「提出書類」については、学科間の差は見られなかった。「やりたい仕事が見つからない」の相談を挙げた割合に注目すると、「北海道エリア」では75.0%、「東北エリア」では57.1%に達している。なお、「就職先がない」については「近畿エリア」50.0%が最も高く、他のエリアは低い数値を示した。

**【コメント】**  
相談時期については未調査であるが、「企業選び→就職試験対策→内定後の不安」という順序で相談内容は変化していると考えられる。また、設置学科、エリアによって、相談内容は大きく異なることが分かる。

Q. 前年と比較して、就職内定率に対する評価は？

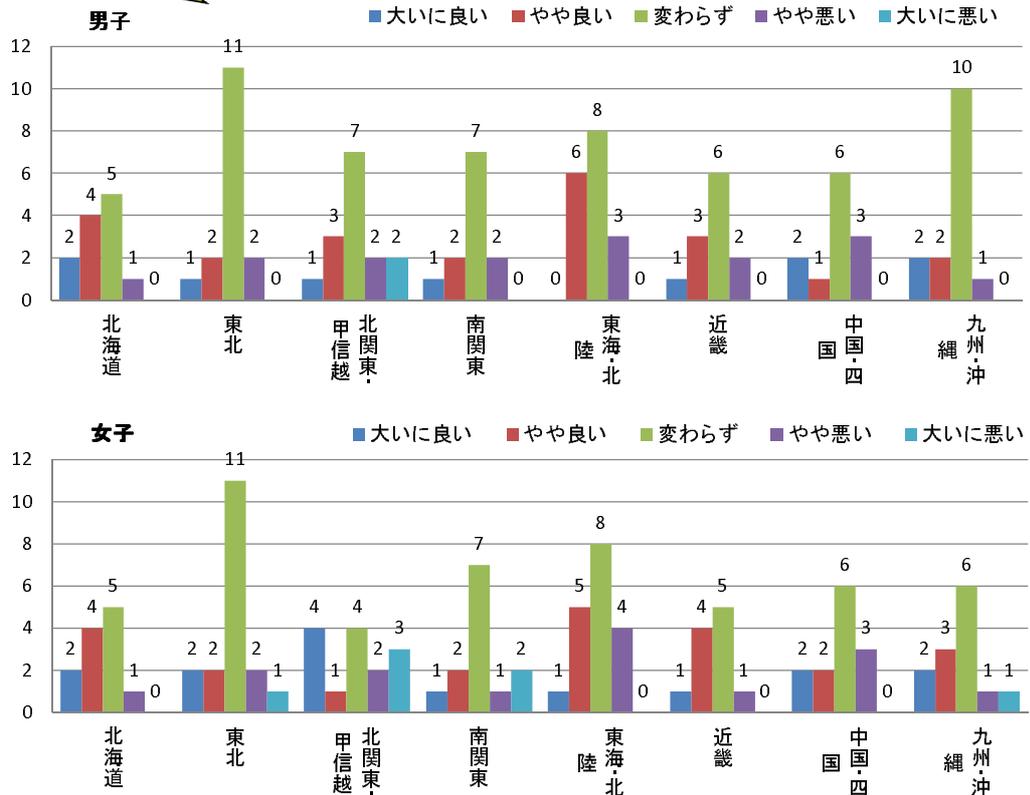


内定率の平均値は、男子が90.8%、女子が86.8%。全回答126校のうち、男子は内定率80%以上が103校(うち53校が100%)、女子は同じく91校(うち49校が100%)。前年との比較による就職内定率の評価は、男女とも「大いに良い」「やや良い」が「やや悪い」「大いに悪い」を上回った。内定状況が好調だった業種は、男子は「建設」「製造」が、女子は男子よりもやや分散傾向にあったが「サービス」「介護」がそれぞれ挙げられた。

【コメント】

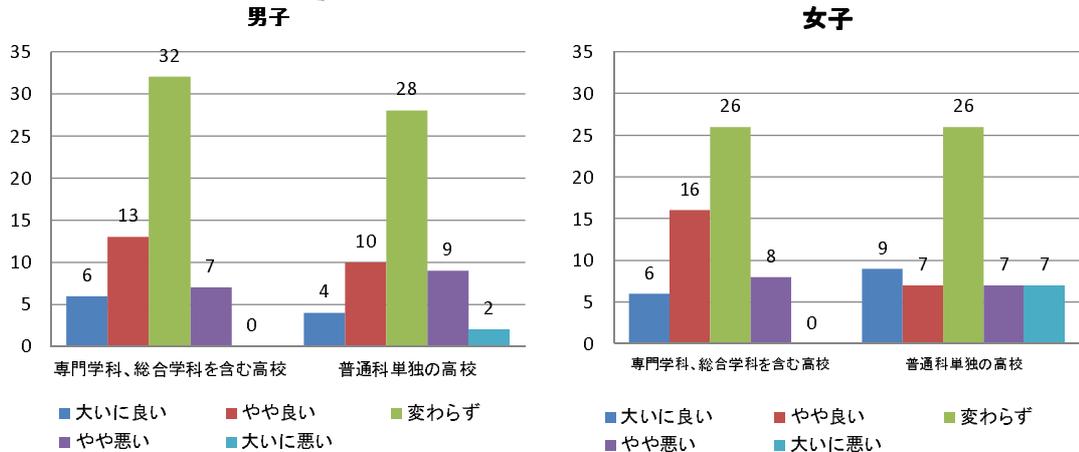
逆に内定状況が不調だった業種においても、男女ともに「製造」の回答が少なからず見られた。前述と矛盾する結果であるが、エリアや製品によって明暗を分ける結果になったと考えられる。また、女子に限れば、事務職および販売職の内定減少の指摘も寄せられた。

内定率詳細分析①(エリア別)



エリア別に見ると、男女ともに、「北海道」「東海・北陸」の内定状況が改善されている。逆に「中国・四国」はやや苦しい状況にある。「北関東・甲信越」の女子のみ、「大いに良い」と「大いに悪い」のいずれも高い値を示す特異な結果となった。

内定率詳細分析②(設置学科別)



男女ともに、「専門学科、総合学科を含む高校」の方が、「普通科単独の高校」よりも内定状況がよい。また、女子の「普通科単独」では、「変わらず」の回答が男子より少なく、「良い」および「悪い」が多くなっている。高校間の「違い」は男子よりも大きいと考えられる。

Q. 前年と比較して、企業規模ごとの内定数増減は？



上図は、「企業規模ごとの内定数増減」を、「増加・普変・減少」の3択で尋ねたもの。「中小企業」の増加が目を引く。高校生の就職環境が好転したのは、中小企業の採用意欲に支えられたとも考えられる。

Q. 前年と比較して、県内の企業、県外の企業の内定数増減は？

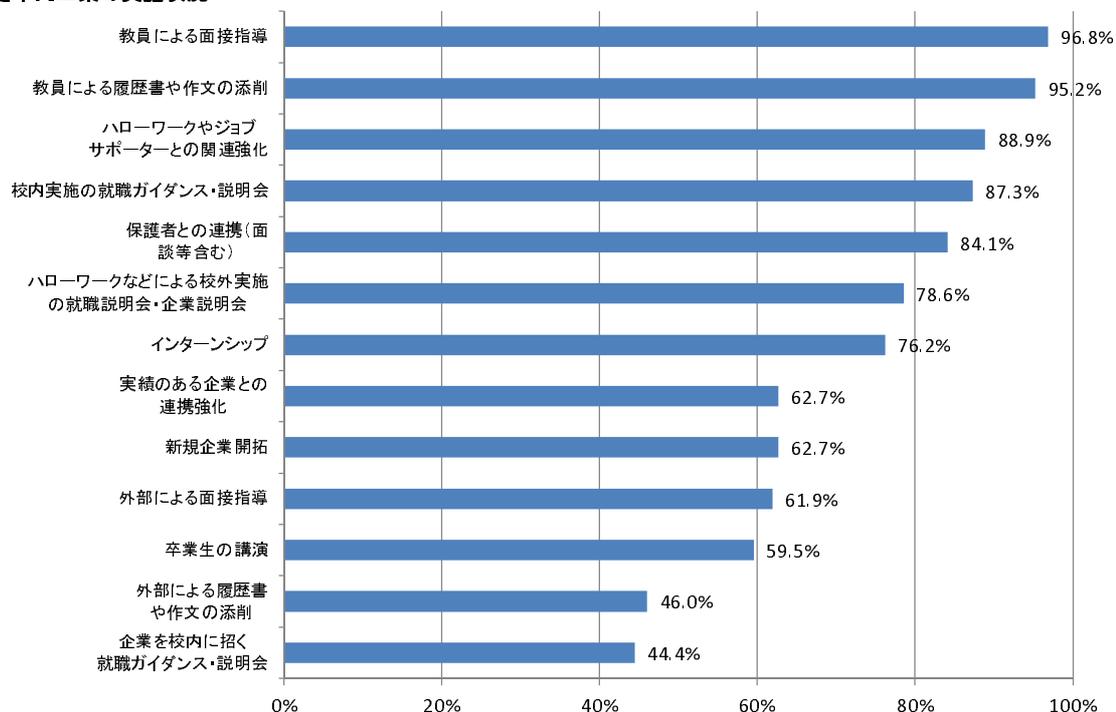


上図は、「県内の企業、県外の企業の内定数増減」を、「増加・不変・減少」の3択で尋ねたもの。「県内企業」への内定傾向が高まっていることが分かる。景気回復が各地に波及してきた表れと言えよう。「県内企業」において各エリアとも「不変」が多い中、東北エリアでは「増加」が「不変」を上回り、九州・沖縄エリアでは「増加」と「不変」がほぼ同数になっている。

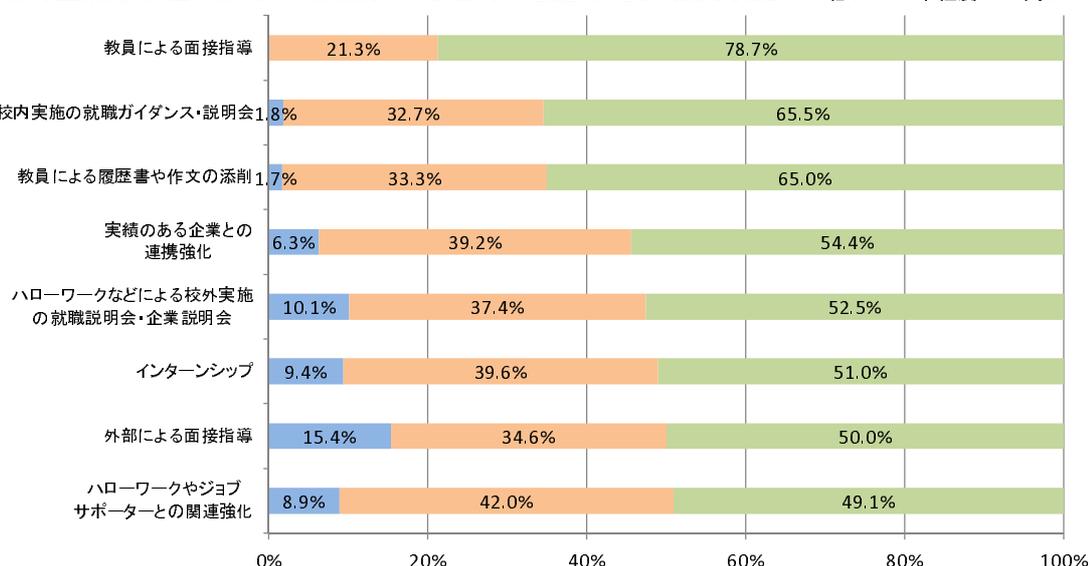
## ②高等学校での取り組み

Q. 内定率向上のための取り組みは？

### 内定率向上策の実施状況



### 内定率向上策の評価(上位項目のみ) ※効果について「低い」「中程度」「高い」の3段階で尋ねた



「面接」と「提出書類」の両対策が中心で、前述した「生徒から受ける相談内容」に類似した結果になった。「保護者との連携」を含め、個別対応の充実が内定向上に結実していくと考えられる。  
ハローワークや実績企業など「外部との連携強化」も、内定率向上に寄与していることがうかがえる。  
また、設置学科によって、各取り組みに対する評価が異なる。特徴が際だつものを以下のグラフで示した。「専門学科、総合学科を含む高校」で高い評価を受けているのは、「校内実施の就職ガイダンス・説明会」「実績のある企業との連携強化」。一方、「普通科単独の高校」で高評価なのは、「ハローワークなどによる校外実施の就職説明会・企業説明会」などである。

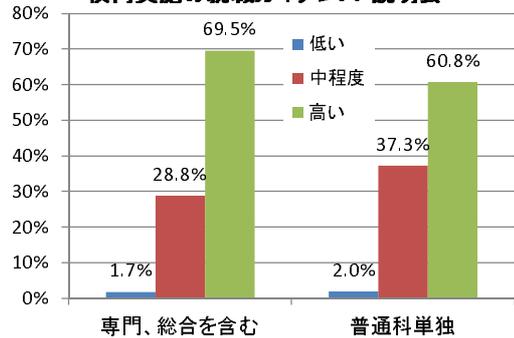
**【コメント】**

個別指導は、確実に内定を引き寄せる。ただ、手間がかかるので、高校内ですべて対応するのは難しいかもしれない。現状では、「面接」や「提出書類」の指導の「外注」は少ないようだが、今後は盛んになる可能性もあろう。「校内実施の就職ガイダンス・説明会」が高い評価を得ている。

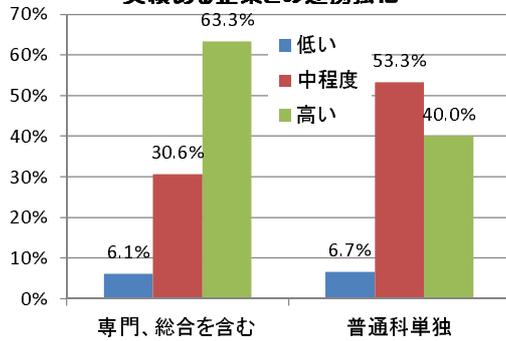
なお、「ハローワークやジョブサポーターとの関連強化」にはさまざまな内容が含まれるが、後述するように求人情報提供が中心だと考えられる。

※内定率向上策の評価(設置学科別) ※効果について「低い」「中程度」「高い」の3段階で尋ねた

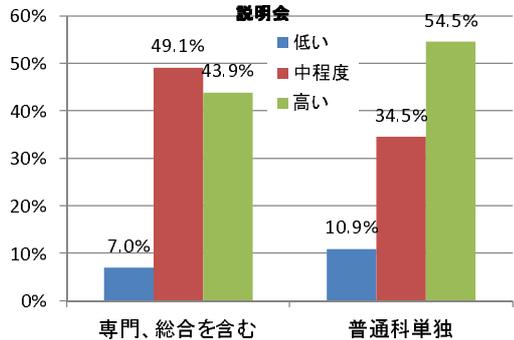
**校内実施の就職ガイダンス・説明会**



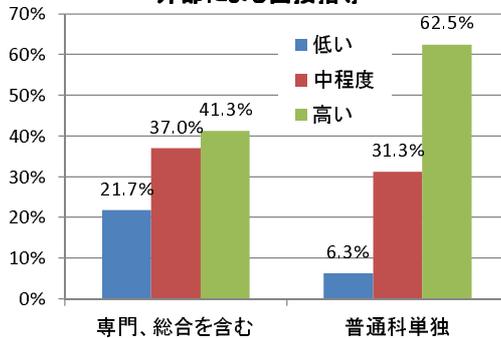
**実績ある企業との連携強化**



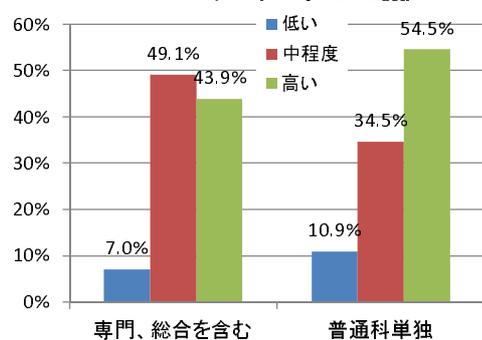
**ハローワークなどによる校外実施の就職説明会・企業説明会**



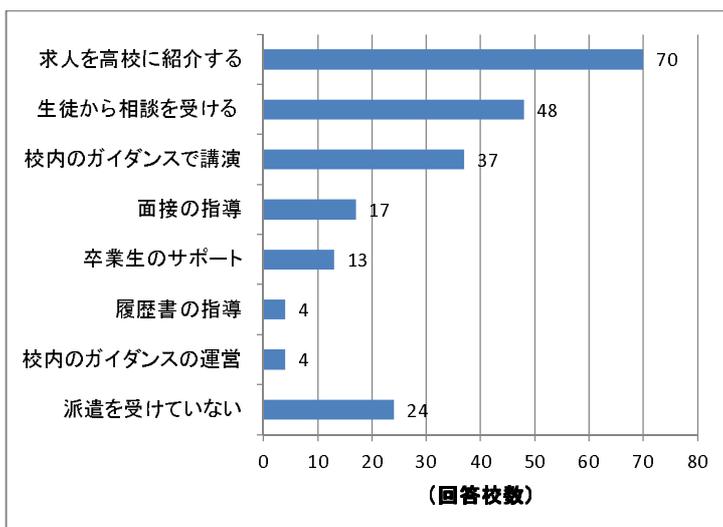
**外部による面接指導**



**ハローワークやジョブサポーターとの連携強化**



Q. ジョブサポーターのサポート内容は？（複数回答可）



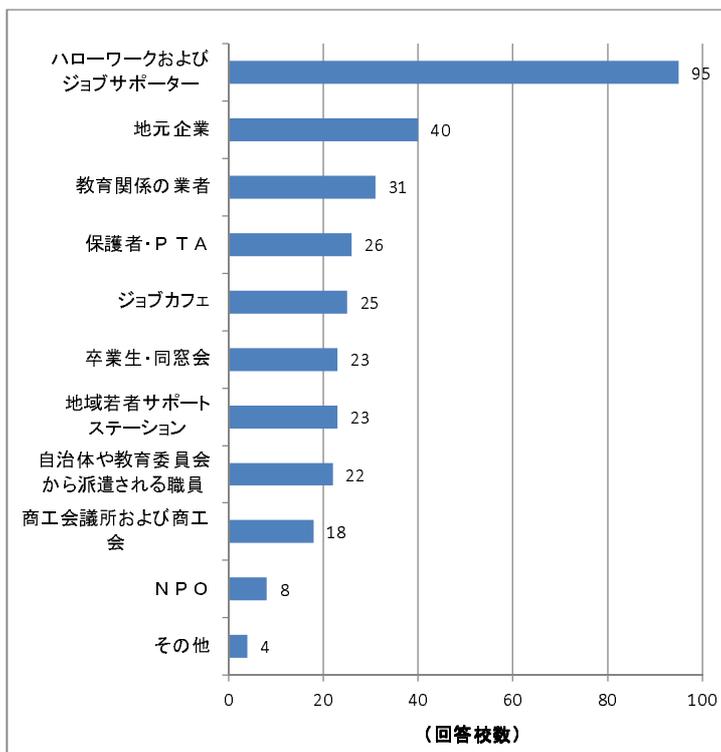
各地のハローワークでは、高校へジョブサポーターを派遣することで内定率を向上させようと努めている。この派遣を受けるか否かは高校側にゆだねられ、本調査では24校が派遣を受けていないが、これは全回答の19.4%に過ぎず、大部分は何らかのサポートを受けている。

サポート内容で最多なのは、70校の「求人者を高校に紹介する」。求人紹介は、訪問持参とファックスの通信の2種類がある。また、「個別相談」「面接指導」「履歴書指導」といった個別対応を行うこともある。1人50分の個別相談を3回実施し、そのあと4～5人グループで面接指導を行う高校もある。

【コメント】

個別指導には、高校およびジョブサポーターいずれも携わるが、その役割は異なるようだ。後者に対しては、「指導が難しい生徒への対応」「適正でない選考した企業への対応」など専門的知識への期待が高い。

Q. 内定率向上のため連携している「外部団体」は？（複数回答可）



2位の「地元企業」は、求人依頼のほかインターンシップの要請も挙げられよう。3位の「教育関係の業者」はガイダンス、イベント、各種教材で協力体制ができていると考えられる。また、4位の「PTA」だが、模擬面接を実施している高校もある。

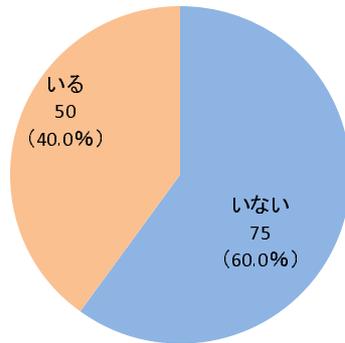
さらに、未就職者を出さないために、「地域若者サポートステーション（略称：サポステ）」の担当者に講演してもらうケースもある。

【コメント】

「ハローワークおよびジョブサポーター」「地元企業」を除けば、3位以下の回答数に大差はない。各地域や高校の実情に合わせ、適した「外部」を選んでいるものと考えられる。

Q. フリーターを志向する生徒は？

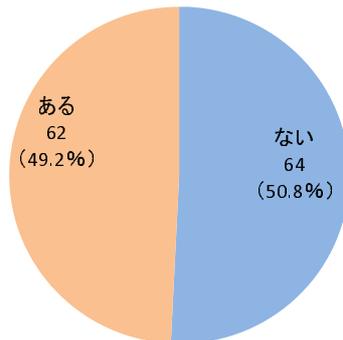
(上は回答校数、下は回答全体に対する割合)



一時期よりは減少したが、いまだにフリーターを志向する生徒がいる。全回答の4割にそうした存在が認められている。「フリーランスの職業やクリエイターを志望する」「親を含め考えが甘い」という従来から指摘されてきた理由・事情のほか、「ショップ店員や事務職に正社員の枠がなく、アルバイト・パートなら採用するため」など雇用情勢の変化を示す理由も挙げられた。

Q. 卒業生からの相談は？

(上は回答校数、下は回答全体に対する割合)



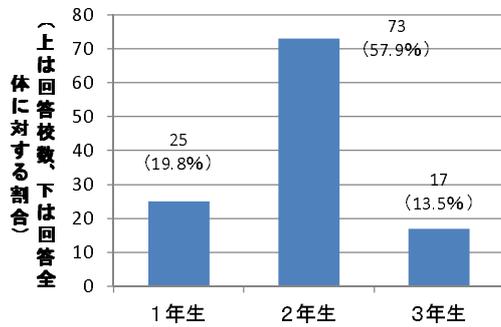
半数の高校が卒業生から相談を受けている。その内容は、「退職」「転職」が中心で、「人間関係」「仕事内容の厳しさ」を挙げる卒業生が多い。中には、パワハラ・セクハラを訴えるケースもある。

【コメント】

在学中に相談していた教員が進路指導部を離れた場合、相談できなくなるケースもあるという。卒業後のケアをどう行うかは今後の課題になりそうだが、ジョブサポーターに託すケースもあるようだ。

### ③就業体験について

#### Q. 就業体験(インターンシップ)の実施状況は？

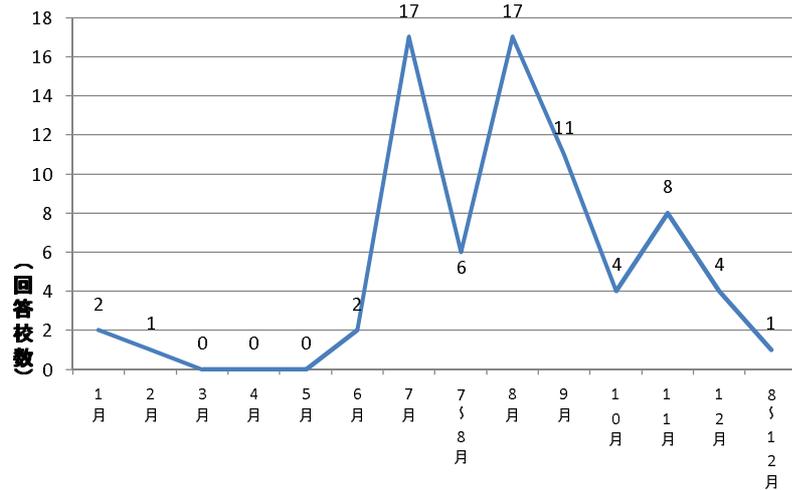


就業体験は2年生が中心になっている。日数は各学年とも3日間が多く、2・3年生に25日間体験させる高校もある。受け入れ先は、近隣の商店、工場、介護施設、保育所が中心で、農家、警察・消防という回答も見受けられた。下図は2年生の月別の状況で、時間制約が少ない夏休み時期が多数を占める。高校によっては通常の授業時間に行うケースもある。

#### 【コメント】

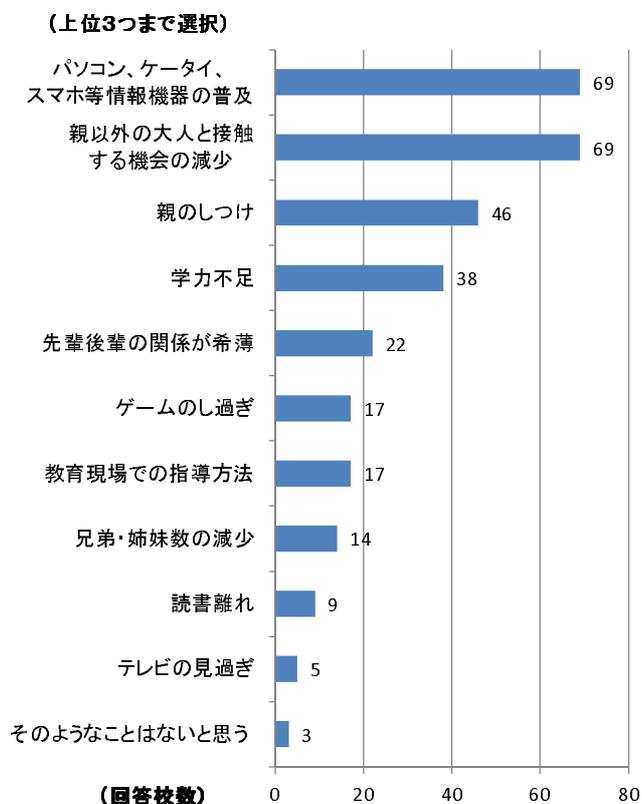
実施後の効果として、「勤労観が高まる」「進路決定に役立っている」と好意的な感想が寄せられた。今後は、個人差が大きいと言われる「体験効果」を全体的にどう高めていくか、同様な取り組みがなされている中学校との連携が課題になろう。

#### 2年生の月別実施状況



#### ④生徒のコミュニケーション力

Q. 就職が決まらない生徒の特徴として「コミュニケーション力」の不足が指摘されているが、その原因は？



「コミュニケーション力」の不足原因について尋ねた。「情報機器の普及」「大人との接触の減少」が、同数で指摘された。69校は全回答の54.8%に当たる。3位に「親のしつけ」46校(36.5%)、4位に「学力不足」38校(30.2%)と続く。自由回答として、「幼少期、児童期の遊び方の変化」「生まれ持った性格」「中学までの学校教育」を指摘する回答も寄せられた。

自由回答形式でその対応策を尋ねたところ、44.4%に当たる56校からさまざまな回答を得た。「面接などで話す機会を設ける」が多く、「読書」「異年齢との接する機会の増加」なども挙げられた。